



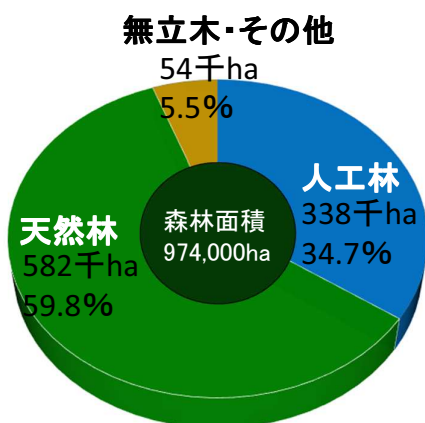
福島県の森林・林業 復興・再生に向けた取組

福島県

福島県の森林・林業

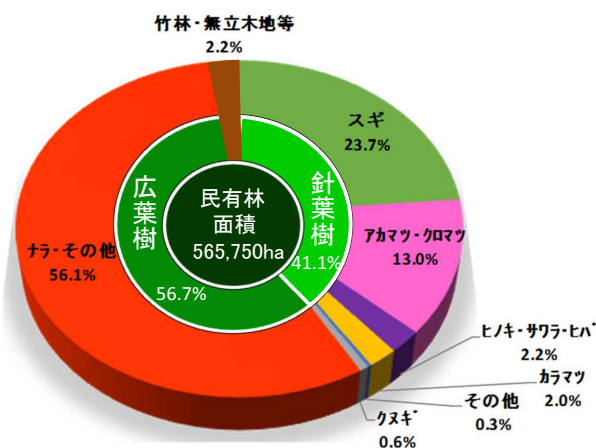
● 福島県の森林の特色

- 森林面積は97万4千haで、県土の7割を占め、全国第4位の広さである。
- 人工林が約35%、天然林が約60%
- 国有林が42%、民有林が58%
- 民有林 ⇒ 公有林19%、私有林81%
- 広葉樹が約57%、針葉樹が約41%



【福島県の森林面積(2017年度(H29))】

資料: 平成29年福島県森林・林業統計書



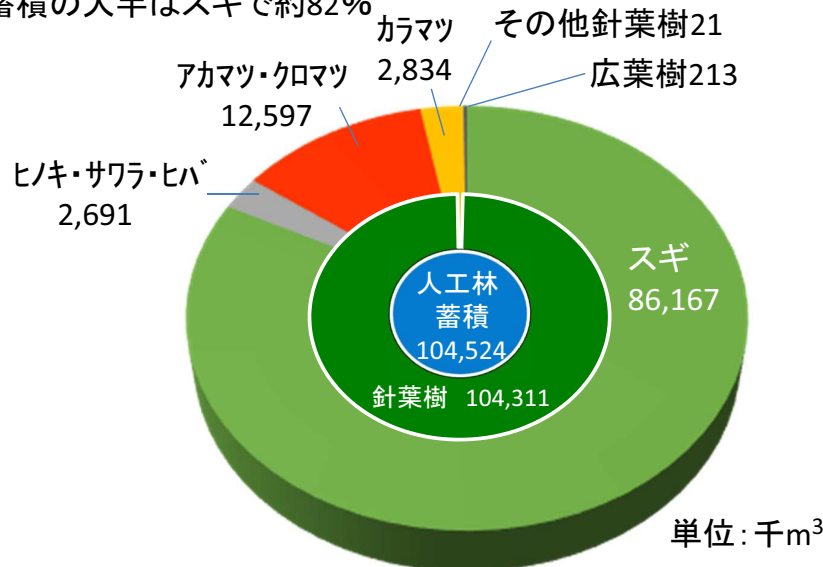
【民有林の樹種別面積の割合(2017年度(H29))】

資料: 平成29年福島県森林・林業統計書

福島県の森林・林業

森林資源(民有人工林の蓄積)

- 民有人工林の面積は20万7千haで、育成途上の45年生以下が34%
- 蓄積は、針葉樹104,311千m³、広葉樹213千m³
- 蓄積の大半はスギで約82%



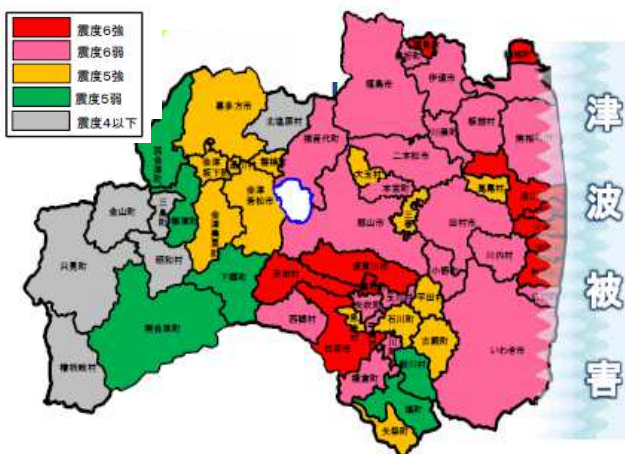
【民有人工林の樹種別蓄積(2017年度(H29))】

資料: 平成29年福島県森林・林業統計書

2

大震災と原発事故による森林・林業の被害

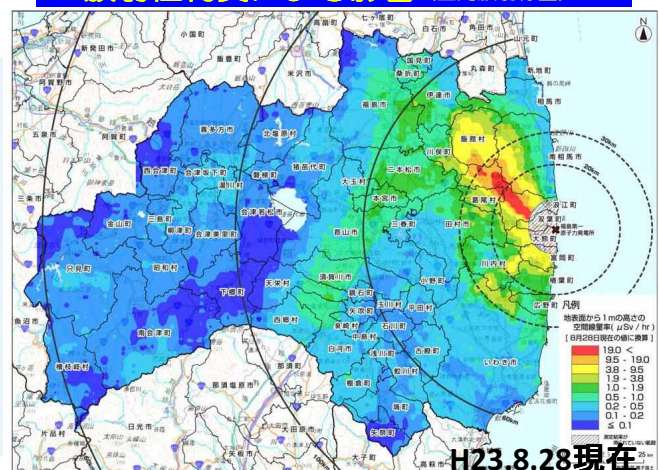
■大震災の震度



■東日本大震災 848箇所、167億円

- 林業等被害 735箇所、24億円
- 治山被害 113箇所、143億円
 - ・ 津波被害
 - 県内の海岸防災林(保安林)261haのうち、約6割の155haが流失。

■放射性物質による影響(空間放射線量)



■原子力発電所の事故(県内図H23.8.28現在)

- 放射線量0.23μSv/h以上
約26万5千ha(民有林の約50%)
- 山菜・野生きのこ等の出荷制限 など

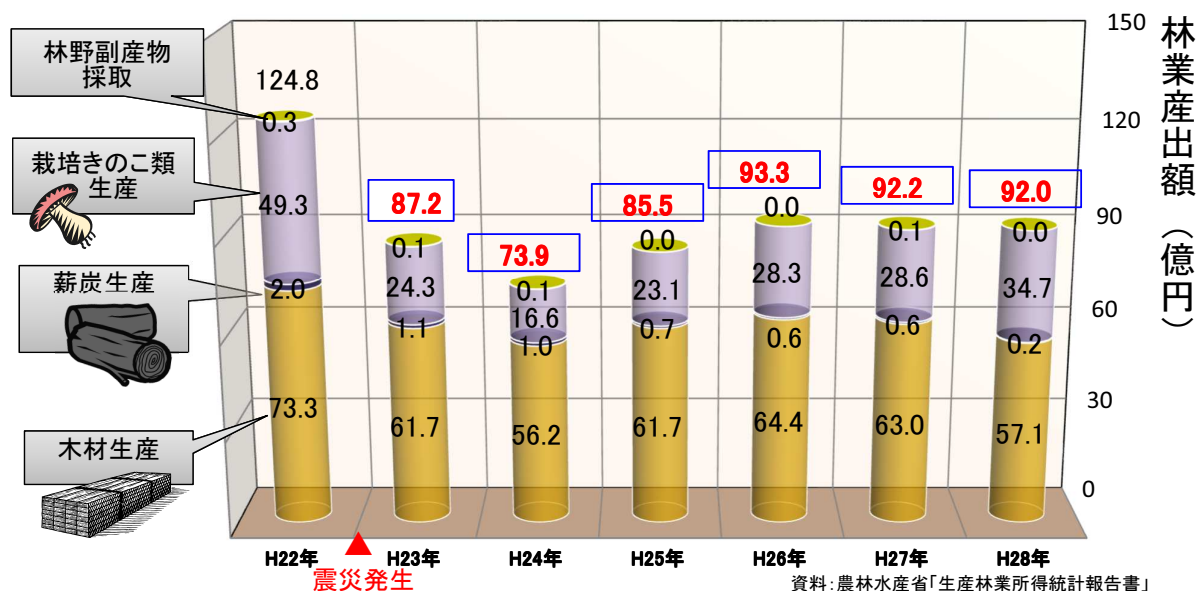
3

大震災と原発事故等による森林・林業への影響

■林業産出額の推移



栽培きのこ生産額は、
大震災前から約4割減。

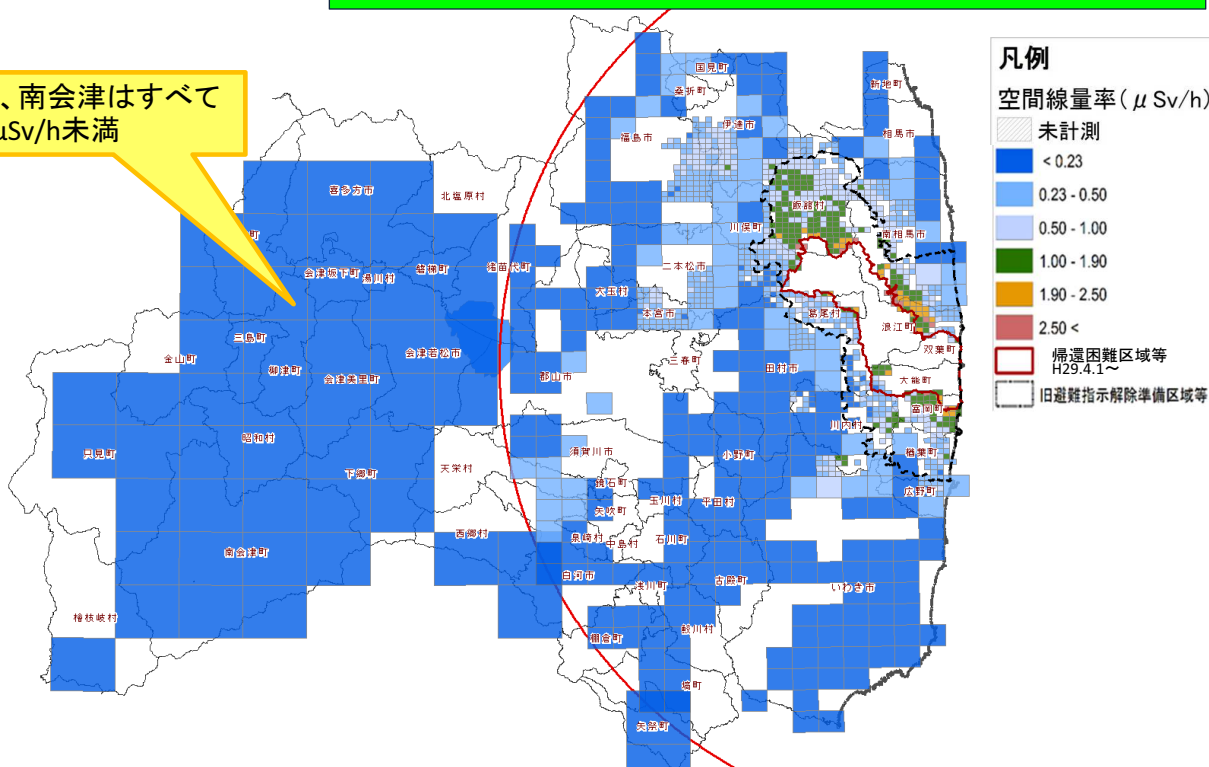


4

放射性物質モニタリング

空間線量率の分布

会津、南会津はすべて
0.23 μ Sv/h未満



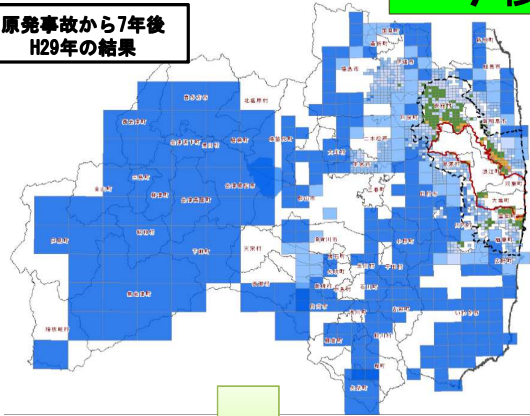
森林内の空間線量率は年々減少 <継続362箇所>

○0.23 μ Sv/h未満の区域の増加 42箇所12%(H23) → 226箇所 62%(H29)
 ○1.00 μ Sv/h以上の区域の減少 127箇所35%(H23) → 2箇所 1%(H29)

平成30年3月1日現在の換算値

5

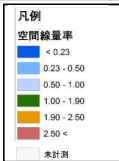
原発事故から7年後
H29年の結果



※平成23年8月から継続調査を実施している362箇所に基づく予測値

(単位は $\mu\text{Sv/h}$)

平成30年3月現在 (再掲)	原発事故10年後 平成33年3月現在	原発事故20年後 平成43年3月現在	原発事故30年後 平成53年3月現在
0.23	0.18	0.13	0.10

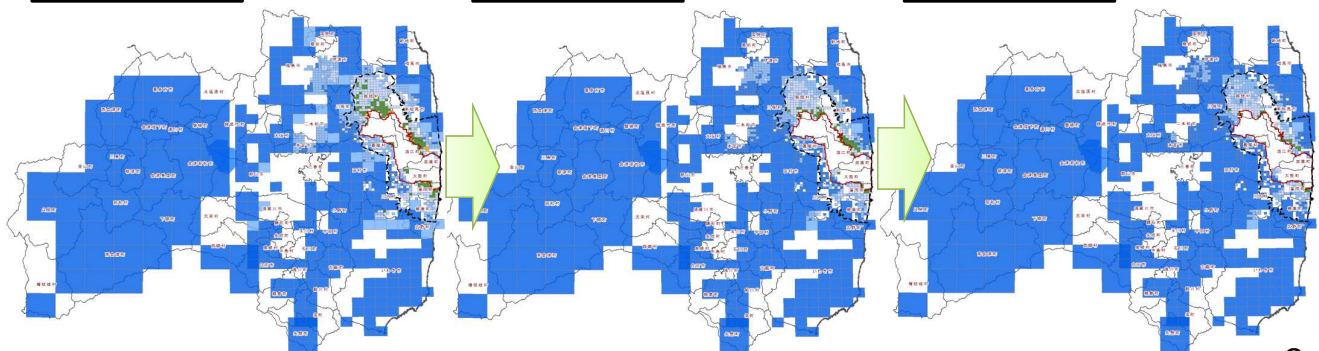


原発事故30年後
避難指示区域周辺の一部を除き
0.1 $\mu\text{Sv/h}$ 以下に

原発事故から10年後
平成33年の予測

原発事故から20年後
平成43年の予測

原発事故から30年後
平成53年の予測



6

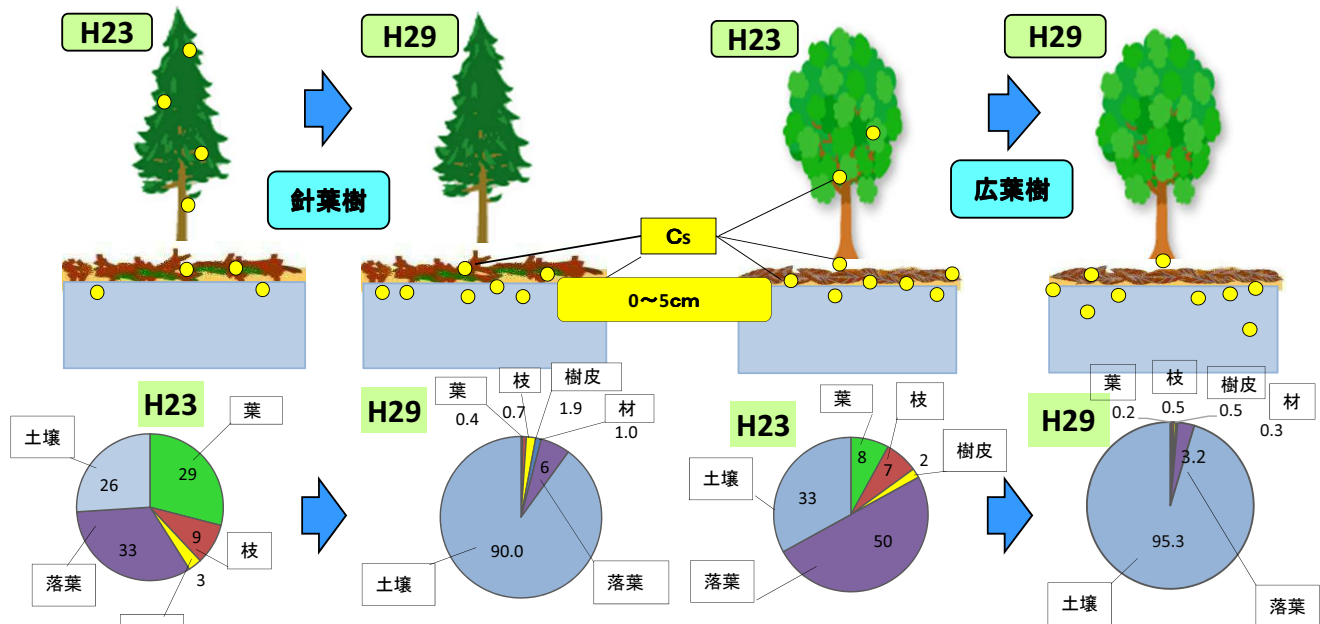
森林の放射性物質の動態変化

(農林水産省H30.3公表、福島県林業研究センター協力)

図中の「Cs」は放射性セシウムの略称

樹木Csは全体の4%程度
⇒ Csが土壌に移行

樹木Csは全体の2%程度
⇒ Csが土壌に移行



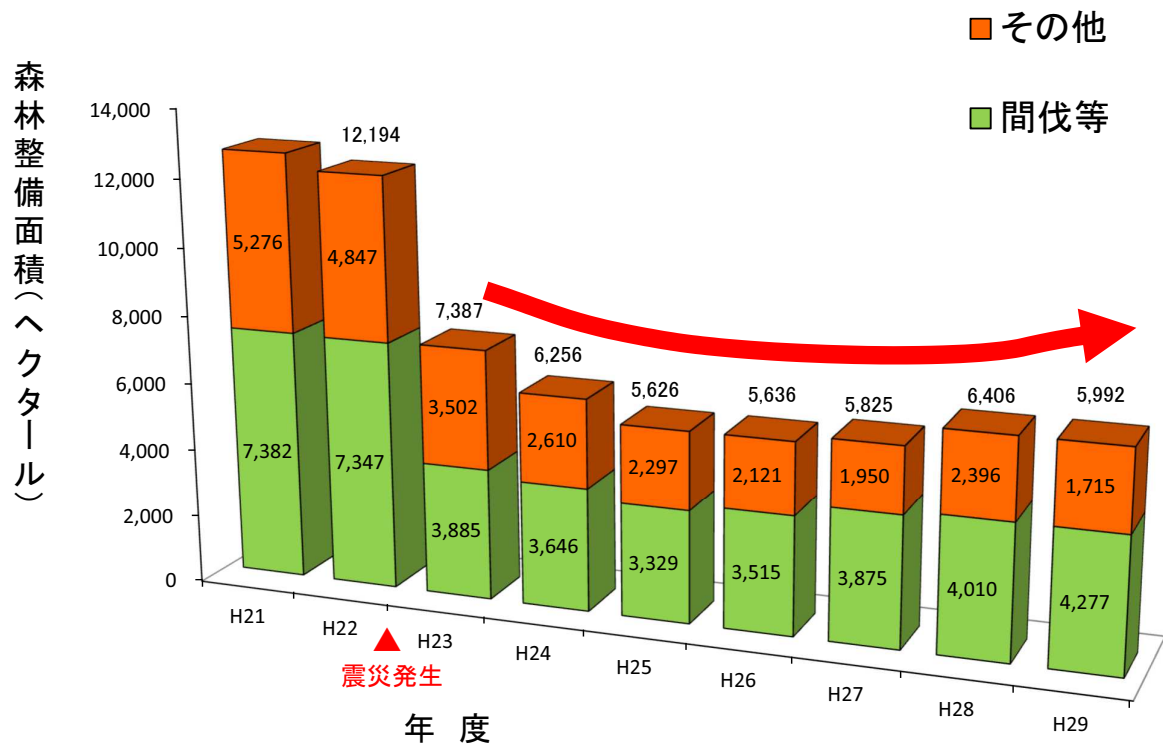
森林内のCsの90%以上が土壌(大部分は0~5cm)に分布

7

大震災と原発事故等による森林整備への影響

■森林整備面積の推移

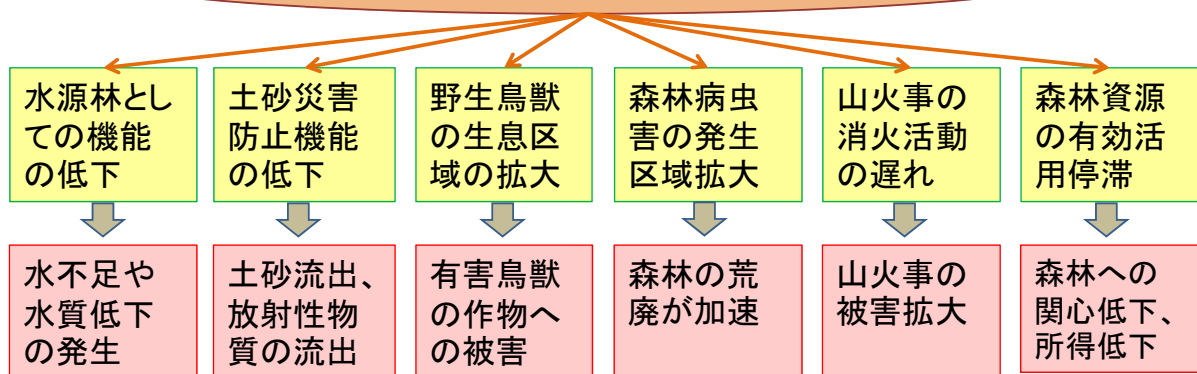
森林整備が、大震災前の約半分に！！



8

ふくしま森林再生事業

荒廃森林の増加、管理路網の荒廃



福島森林の再生

9

ふくしま森林再生事業

1 事業目的

原発事故によって森林が広範囲に放射性物質で汚染されており、森林整備や林業生産活動が停滞し、森林の有する水源かん養や山地災害防止等などの公益的機能が低下している。このため、間伐等の森林施業と路網整備を一体的に実施し、森林の公益的機能を維持しながら放射性物質対策に取り組み、本県の森林再生を図る。

2 対象区域 汚染状況重点調査地域等

3 事業主体 市町村等

4 事業内容と補助率

(1) 放射性物質対策 補助率：定額(10/10)

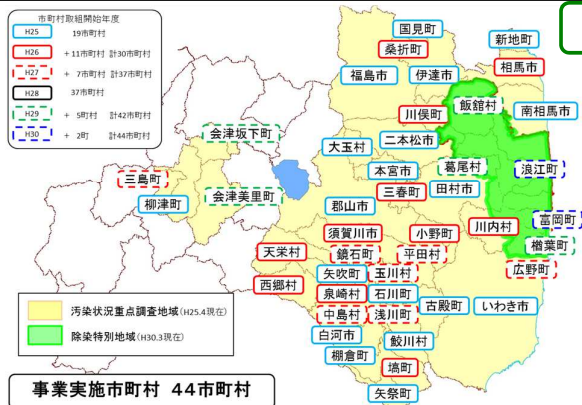
- ① 事業計画樹立等(全体計画、年度別、面積、事業費、同意取得等)
- ② 森林調査(空間線量率、資源、利活用、路網等)
- ③ 枝葉等処理(分別、粉碎、梱包、運搬、棚積み等)
- ④ 効果調査等

(2) 森林整備等 補助率：72%(国54%、県18%)

※補助残額には「震災復興特別交付税措置」がある。



針葉樹の間伐



事業実施市町村 (H30.9現在)

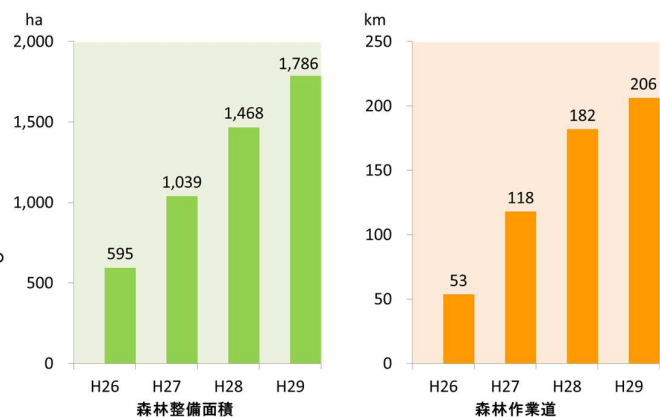


広葉樹の更新伐

10

ふくしま森林再生事業実績

当事業創設からこれまでに44市町村森林整備約4,888ha、作業道整備約559kmを実施しています。



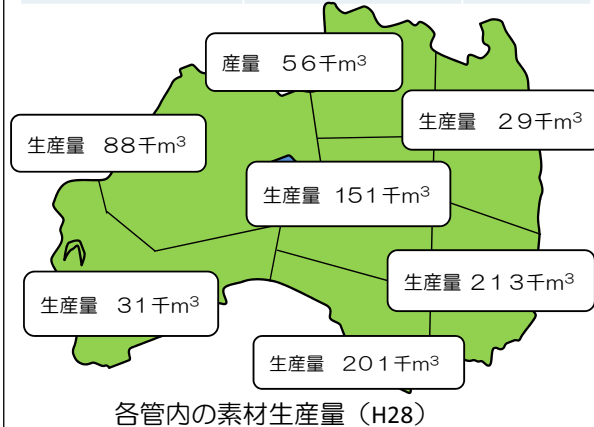
11

「県産材の活用」について

○本県林業・木材産業の現状

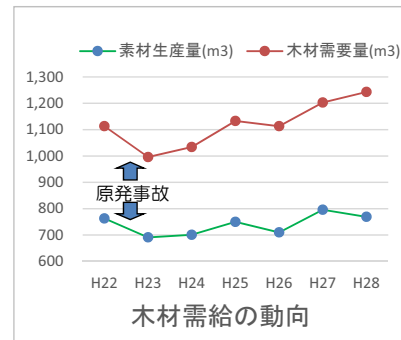
- ①本県は全国有数の林業・木材産業県
- ②素材（丸太）の生産量はスギやマツが多い。
- ③県南地域、いわき地域からの素材生産量が県内全体の過半を占める。

項 目	数量(単位)	全国順位
森林蓄積量	207,477千m ³	3
素材生産量(H28)	769千m ³	8

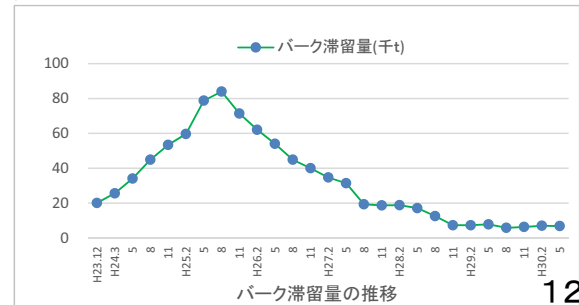


○本県林業・木材産業の現状

- ①H28の素材生産量は震災前とほぼ同様。
- ②H28の木材需要量は震災前以上に回復。



- ③バークの滞留量は産廃処理等が進み、減少傾向



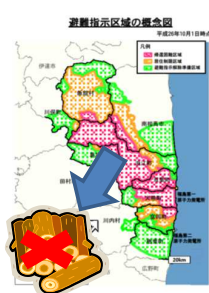
県産材の安全・安心の確保

- 木材製品には放射性物質を考慮した使用基準値は無い。製材品の表面線量調査を続けながら、安全性を確認し、公表しております。
- 製材工場等におけるバークの滞留は続いていたが、処理が進み滞留は解消しています。

【素材生産の制限】

帰還困難区域や居住制限区域における営林活動、木材製品の出荷は制限。

避難指示解除準備区域においては、空間線量率に留意しながらの活動が必要(<2.5 μ Sv/h)。県では立木の濃度調査等を展開し、汚染状況を確認。



【県による製材品の確認調査】

県産材を製材、出荷している全工場において、県が定期的に製材品の表面線量を測定。専門家よりすべて安全であるとの評価。

継続的な調査が必要。

<調査結果>

回数	工場数	検体数	最大値
28回	のべ 3,566	26,712本	92cpm

※92cpmは0.0031 μ Sv/hに相当 (H24.3計測)



【木材団体による自主検査等】

県では、主な木材市場、製材工場に検査機器を配備。

木材関係団体では、自主管理基準値(1000cpm)を定め、製材品等の自主検査を実施。



【バークの滞留と対応】

製材の過程で発生するバークの多くは、畜産農家や堆肥製造業者に引き取られていたが、原発事故により、その多くが停止。

その後、産業廃棄物としての処理、仮置き場の造成、ペーラーによる減容化などにより、徐々に滞留の解消が進む。

○県の主な対応

- ・資金貸付による事業者負担の軽減
- ・東京電力への混焼要請



ペーラーによるバークの圧縮

福島県の森林・林業の再生に向けた総合的な取組

■ 里山再生モデル事業(概要)

1. 目的

モデル地区において、里山再生のための取組を総合的に推進、成果を対策に反映

2. モデル事業の対象

避難指示区域等において、集落10カ所程度を目途にモデル地区として選定

3. 事業の概要

モデル地区において、関係省庁の事業を組み合わせ実施

＜事業実施期間＞ 3年程度を目途(必要に応じて延長)

＜連絡会議＞ 関係省庁、福島県による連絡会議を設置

14

福島県の森林・林業の再生に向けた総合的な取組

■ 里山再生モデル地区の選定

＜市町村の意向把握＞

◇浜通りを中心とした17市町村を対象に、関係省庁が合同で、各市町村を個別訪問(県は同行)し意向を確認。

＜現地調査等の実施＞

◇市町村の意向をもとに、個別打合せ及び現地調査を実施

・関係省庁プロジェクトチーム会合(第3回)

◇里山再生モデル事業4地区を選定。(平成28年9月6日)

・関係省庁プロジェクトチーム会合(第4回)

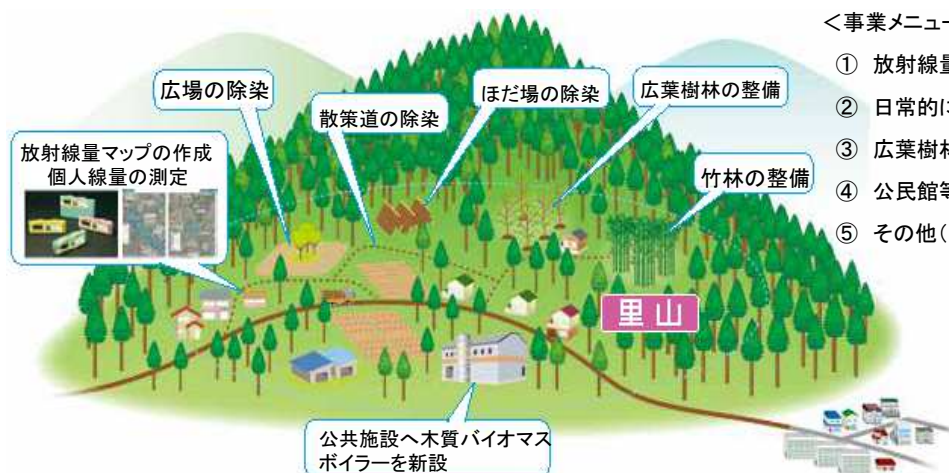
◇里山再生モデル事業6地区を選定。(平成28年12月22日)

・関係省庁プロジェクトチーム会合(第5回)

◇里山再生モデル事業4地区を選定。(平成30年3月2日)

15

福島県の森林・林業の再生に向けた総合的な取組



＜事業メニューの例＞

- ① 放射線量マップの作成、個人線量の測定
- ② 日常的に人が立ち入る森林の除染
- ③ 広葉樹林や竹林等の整備
- ④ 公民館等への木質バイオマスボイラーの設置
- ⑤ その他(自治体の要望に応じて検討)

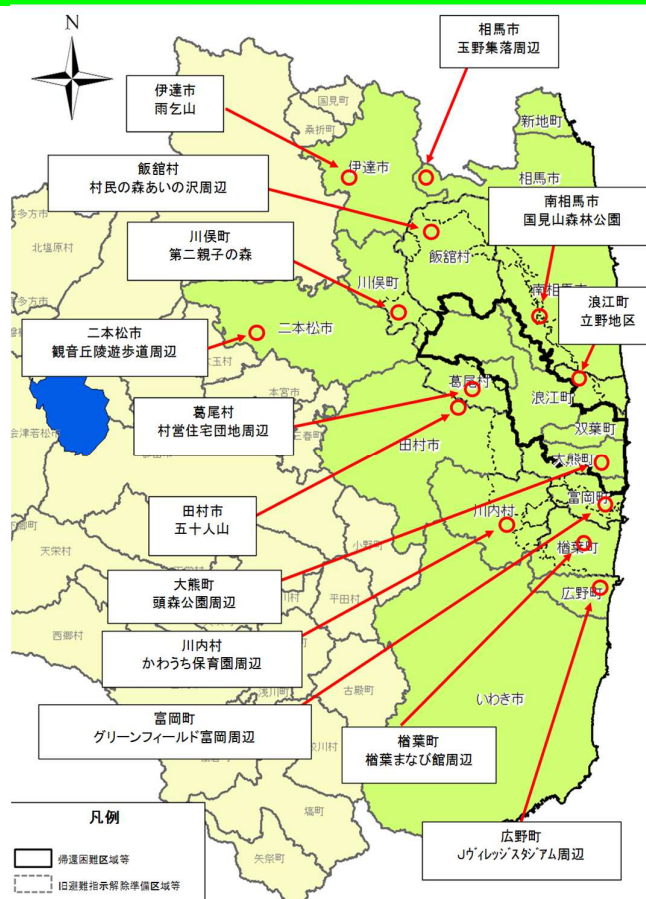
里山再生モデル事業(14市町村で実施中)

市町村名	地区選定	区域面積(ha)	市町村名	地区選定	区域面積(ha)
川俣町	H28.9.6	2	富岡町	H28.12.22	108
広野町	"	11	浪江町	"	258
川内村	"	12	飯舘村	"	87
葛尾村	"	33	田村市	H30.3.2	37
相馬市	H28.12.22	56	南相馬市	"	39
二本松市	"	54	楡葉町	"	1.8
伊達市	"	95	大熊町	"	5

16

福島県の森林・林業の再生に向けた総合的な取組

選定されたモデル地区



太平洋

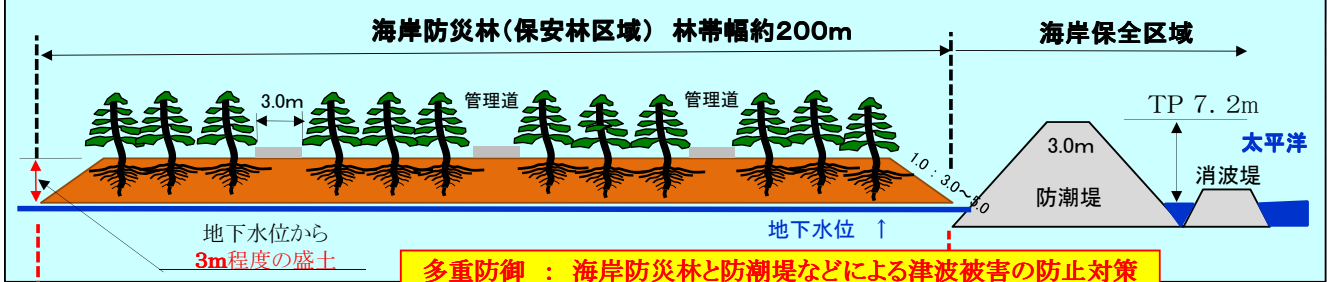
17

海岸防災林の復旧(整備)について

■ 海岸防災林の復旧方法

全国初となる津波防災対策への取組

海岸防災林の復旧にあたっては、これまでの飛砂、潮害、風害防備などの災害防止機能に、津波エネルギーの減衰機能や、津波漂流物の捕捉機能などを追加して整備しています。～県民の生命と財産を守る海岸防災林～
(津波対策として林帯幅を概ね200m確保し、地下水位から3m程度の盛土と、クロマツ等の植栽を行っています。)



多重防御：海岸防災林と防潮堤などによる津波被害の防止対策

◇ 海岸防災林の復旧状況 (原町地区)



18

海岸防災林復旧(整備)の進捗状況について

◇ 地区別計画



◇ 地区別の進捗状況 (全体で9地区を整備、うち1地区が完了)



①相馬地区(進捗率63%)



②鹿島地区(進捗率83%)



③原町地区(進捗率94%)



④小高地区(進捗率51%)



⑤浪江地区(進捗率44%)



⑥双葉地区(進捗率31%)



⑦富岡地区(進捗率6%)



⑧檜葉地区(進捗率46%)



⑨新舞子地区(進捗率100%)

(注) 進捗率は、H30.3現在の予算ベースで整理

19

第69回全国植樹祭ふくしま2018について

平成30年6月10日に開催しました。

全国植樹祭 48年ぶりの開催!

多くの皆様の御支援、御協力ありがとうございました。

- 昭和45年5月、第21回大会を猪苗代町天鏡台において開催し、昭和天皇から津島マツのお手植えを賜りました。翌日には、郡山市の県林業試験場(現・県林業研究センター)において、飯豊スギの種子のお手播きを賜りました。
- 第69回全国植樹祭は、「育てよう 希望の森をいのちの森を」を大会テーマに、復興に向けて力強く歩み続ける福島県民の姿や国内外から寄せられた温かい御支援への感謝の気持ち、そして 未来につなぐ希望の森林づくりを広く発信しました。



開催理念

- ◇ 県民参加の森林(もり)づくり活動を推進します。
- ◇ 海岸防災林の復旧・再生や放射性物質の影響を受けた森林の再生を目指します。
- ◇ 大会開催を契機とし、本県の復興・発展を加速する原動力とします。
- ◇ 県内外の多くの方が参加できるようにします。
- ◇ 国内外からの支援に対する感謝と復興に向かって強く歩み続ける福島の姿を広く発信します。

大会テーマソング
福ある島(作詞/作曲/唄 GReeenN)



大会コンセプト

ふくしまから発信する森林づくり

千年に一度の大災害から復興した海岸防災林を会場に、植樹活動による人と人とのつながり、ふるさとへの思い、未来への希望を、国内外に発信する、被災地において初めての大会。

大会プログラム

- プロローグ
- 式典行事
 - ◇ 主催者あいさつ
 - ◇ 表彰
 - ◇ 苗木の贈呈
 - ◆ 天皇皇后両陛下による「お手植え」「お手播き」
 - ◇ 代表者記念植樹
 - ◇ エノキ植樹御覧
 - ◇ メインアトラクション
 - ◇ 大会宣言
 - ◇ リレーセレモニー
- エピローグ

- ※ お手植え樹種
天皇陛下：クロマツ、ケヤキ、スダジイ
皇后陛下：アカマツ、ヤマザサ、ヤマザサ
- ※ お手播き樹種
天皇陛下：津島マツ、飯豊スギ
皇后陛下：ベニシダレ、マルバシャリンバイ



大会会場

- 式典会場 南相馬市原町区雲(しどけ)地内
〔海岸防災林整備地〕
- ◇ サテライト会場 ふくしま県民の森(大玉村)
- ◇ P R 会場 福島市・郡山市・白河市・会津若松市
- ◇ 関連事業 第47回全国林業後継者大会(いわき市)

※式典参加者約8千人
(サテライト・PR会場を含めた当日参加者約14千人、森林とのきずなづくり植樹リレー等の関連行事を含め合計約49千人が参加)



県民参加の森林づくり活動

- 県民参加による大会苗木の育成
【苗木のスクールステイ・ホームステイ】
学校・企業・家庭で苗木を育てました。
〔小学校131、企業90、一般家庭73の参加〕
- 森林とのきずなづくり植樹リレー
県内各地域の植樹活動を全国植樹祭までリレー方式でつなぎました。
- 全国植樹祭支援の森
式典会場に隣接した海岸防災林において、一定額以上の協賛者33団体がクロマツの苗木を植えました。また企業等の皆様から多くのご支援をいただきました。



- ◆ 第69回全国植樹祭ホームページ
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/syokujusai/>
- ◆ お問い合わせ
第69回全国植樹祭福島県実行委員会事務局
TEL 024(521)8628

第1回ふくしま植樹祭～ABMORI～ の開催について

第1回ふくしま植樹祭を開催しました

第69回全国植樹祭ふくしま2018の開催理念を引継ぎ、ふくしま植樹祭の第1回大会を開催しました。
当日は、澄み切った秋晴れの空の下、歌舞伎俳優の市川海老蔵さんを始め、県内外から3,000人の方々に参加いただき、海岸防災林に27,000本の植樹を行い、未来につなぐ希望の森林づくりへの思いと復興に向けて歩み続ける福島の姿を広く発信しました。

開催コンセプト

未来につなぐ希望の森林づくり

未来を担う子どもたちに、美しいふるさとを継承するため、希望あふれる未来への思いを苗木に込め、県内外の多くの方々と植樹活動を通じて創り出す希望の森林づくり(「いのちを守る森」づくり=ABMORI)により、福島との共感の輪を広げていきます。

開催概要

- 1 開催日時 平成30年11月4日(日) 10:00～14:00
- 2 開催場所 南相馬市鹿島区北海老地内(海岸防災林)
- 3 実施主体 ふくしま植樹祭実行委員会
- 4 参加者数 3,000人
- 5 開催内容 ※南相馬市鎮魂復興市民植樹祭と同時開催
 - 開会式(10:00～)
福島県知事挨拶、南相馬市長挨拶、市川海老蔵氏の紹介、ゲスト紹介(ミス日本みどりの女神2018・2017)、記念植樹、記念撮影 ほか
 - 植樹活動(10:30～)
クロマツ植樹(9,000本)・広葉樹植樹(18,000本) 計 27,000本植栽
 - 交流イベント(11:30～)
木工・丸太切り・薪割体験、県産品物販、豚汁・おにぎり無料配布、水・お茶の配布ほか
 - 閉会(14:00～)



ABMORI エピモリ ～海老蔵の森～ 信州・志賀高原から始まる市川海老蔵「いのちを守る森」づくり

海老蔵さんは、日本の美しさを後世に継承するために、長野県山ノ内町・志賀高原で森づくりを通じて、多くの人に森との関わりを創り出す、信州・志賀高原から始まる市川海老蔵「いのちを守る森」づくり=ABMORIの活動を行い、森の再生を呼びかけています。

福島県の森林・林業再生に向けて ～地域の活性化～

多面的機能の持続的な発揮

